

環境経営レポート



北光金属株式会社

活動対象期間:2023年10月～2024年9月

発行日:2025年3月14日

承認	審査	作成
		

貴金属クラッド・ロウ付け材料・特殊加工

北光金属株式会社

http://www.hokko-metal.co.jp/

北光金属は、摩耗・消耗・振動に強い材質や有効な接点素材が欲しいお客様の御要望にお応えします。

製品情報

電気接点用

- ・各種クラッド材料
- ・貴金属材料



【インレイクラッド】



【エッジレイクラッド】



【クラッドテープ】

- 銀・金・パラジウムの電気接点材料と、銅・銅合金の伸銅品を接合したクラッド材です。インレイ・エッジレイとクラッドテープ(角線クラッド)の3タイプがあります。お客様の用途に応じたタイプを提案いたします。
- 1本の電話連絡から、お役にたてた事例がたくさんあります。クラッド材料・貴金属材料に関しましては、ぜひ、お問い合わせください。

ロウ付け材料

- ・板材
- ・線材
- ・棒材
- ・サンドロウ



特殊加工品

- ・貴金属パイプ
- ・異形線



- 銀ロウ・リン銅ロウのほぼ全ての形状製品を生産しております。超硬ロウ付け用の銀ロウサンドロウ、リン銅ロウ板材・箔材は、国内シェアNo.1です。

- 板材・線材・棒材・パイプ材の加工設備を有し、多品種の製品を製造しております。ほとんどすべての形状を加工できる国内でも数少ない特殊な会社です。

主な設備

分類	設備名	備考	分類	設備名	備考
溶解設備	連続铸造機	棒材Φ15～83, スラブ、条材	スリッター		
	高周波溶解炉	#150大気溶解炉	抽伸機	ドローベンチ	Φ50～10
	LPG溶解炉	#100大気溶解炉	接合装置	インレイ用	
	重油溶解炉	#50大気溶解炉		エッジレイ用	
	真空溶解炉	#15大気溶解炉		角線クラッド用	
成型プレス	500トンプレス	ビレット経Φ82.5		シーム溶接機	
熱間押出機	600トン縦型	ビレット経maxΦ83	平角伸線機	角線クラッド用	
	1000トン横型	ビレット経maxΦ108			
	1500トン横型	ビレット経maxΦ130			
伸線機	横型伸線機	Φ15から伸線	焼純炉	ポット式焼純炉	
	縦型伸線機	Φ10から3連続伸線		横型連続焼純炉	
	縦型伸線機	単頭伸線機(15機)		管状炉	
	縦型伸線機	単頭伸線機(4機)		大気焼純炉	箱型炉
	連続伸線機	細線用(2基)	測定機	SEM・EDS	走査電顕・微小分析
	連続伸線機	細線用(3基)		表面粗さ計	
圧延機	熱間2段式			硬度計	マイクロヴィッカース
	冷間2段式			金属顕微鏡	デジタルカメラ付
	冷間4段式			投影機	Φ300スクリーン
	可逆4段式			渦流探傷機	角線クラッド用
	可逆6段式				

はじめに

弊社はグローバルな視点で持続可能な社会への参画を目指しており、エコアクション21環境経営システムは、弊社にとりましてはこれを具現化する為の最適な手法であります。

エコアクション21を事業の中に取り入れ、環境経営の視点を持ち、事業による社会貢献のみならず、環境負荷削減の面からも広く社会への貢献を果たしていく所存です。

目次

はじめに／目次	P 3
環境経営方針	P 4
北光金属とSDGsの取組	P 5
事業活動の概要と対象範囲	P 6
取組の実施体制・役割権限	P 7
2024年度 環境経営目標	P 8
2024年度 環境経営計画	P 9
地域とのコミュニケーション	P 10
環境経営目標・計画の取組結果総括	P 11
2025年度 環境経営目標	P 17
2025年度 環境経営計画	P 18
環境関連法規等・遵守状況	P 19
代表者による全体評価見直し	P 20

環境経営方針

環境理念

北光金属は、緑豊かな福島県安達地域で、全社員が環境保全並びに持続可能な社会の構築活動を推進します。

行動指針

北光金属は、主力事業である電気接点用貴金属クラッド材料やロウ付け材料等の、溶解鑄造から接合・圧延・伸線加工等の全ての事業活動において、以下の活動項目に取り組みます。

1 環境負荷低減活動では、以下の重点課題に取り組みます。

- ① 電力使用量の削減
- ② 二酸化炭素排出量の削減
- ③ 自家消費型太陽光発電の導入と活用
- ④ 水使用量の削減
- ⑤ 化学物質使用量の削減
- ⑥ 廃棄物量削減(加工屑発生量削減等)
- ⑦ グリーン購入の推進
- ⑧ グリーン製品の提供

2 環境負荷低減活動の重点分野は、経営における課題とチャンスを踏まえ、事業年度毎に部門単位で具体的な施策を作成し、毎月の確認会で進捗を確認する環境マネジメントシステムのPDCAサイクルにより、継続的改善を図ります。

3 事業活動に関わる環境関連法規等を遵守します。

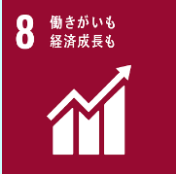
4 当社の全従業員及び関係者に周知し、その実行と達成に努め、又周辺地域とのコミュニケーションを通じて、地域社会との共生を図ります。

2023年10月1日

北光金属株式会社
代表取締役



北光金属とSDGsの取組

SDGsのゴール	当社の活動
 8 働きがいも 経済成長も	・安全衛生活動 ・防災訓練の実施 ・SDGsに関わる製品を社員にわかりやすく説明
 9 産業と技術革新の 基盤をつくろう	・EVモーター用製品の生産拡大 ・CO₂削減給湯器用製品の生産拡大 ・高機能な接点素材の開発と安定供給
 12 つくる責任 つかう責任	・スクラップの削減 ・スクラップ原料のリユース活用 ・スクラップ原料のリサイクル活用 ・スクラップ原料の廃棄ゼロ
 13 気候変動に 具体的な対策を	・省エネの推進 (照明器具のLED化・高効率設備への更新) ・CO₂排出量の削減 (調整排出係数の低い新電力会社の採用、 自家消費型太陽光発電の導入)
 14 海の豊かさを 守ろう	・水質汚濁防止 ・特定化学物質の使用量削減
 15 陸の豊かさも 守ろう	・化学物質管理

事業活動の概要と対象範囲

1: 事業者名及び代表者

北光金属株式会社

代表取締役 斎藤 宏通

2: 設立 1968年

3: 住所

<登録認証対象範囲>

岩代工場 〒964-0314 福島県二本松市西勝田字柏木田202番地

<登録認証対象範囲外>

本社・志木工場 〒353-0001 埼玉県志木市上宗岡三丁目10番1号
※2025年12月目途で認証取得の準備中

4: 事業内容

<全活動が対象範囲>

- ・電気接点用の貴金属クラッド材の製造
- ・銀ロウ、リン銅ロウの製造
- ・各種銀合金 板材・棒材・線材・パイプの製造
- ・各種銅合金 板材・棒材・線材・パイプの製造

5: 年度事業規模

<2023年10月～2024年9月>

<登録認証対象範囲>

	全体(本社・志木工場含)	岩代工場
年間売上高	373 千万円	135 千万円
従業員数	76 名 (2024年9月30日現在)	65 名 (2024年9月30日現在)
床面積	4,310平方メートル	3,206平方メートル
敷地面積	23,482平方メートル	22,000平方メートル

6: 環境管理責任者・担当者氏名

環境管理責任者 遠藤喜弘 TEL 0243-55-3030

7: 特記

- ・弊社岩代工場が製造部門のほぼ90%の生産量であり、環境負荷が最も高いので登録・認証範囲を岩代工場に定め、2010年度実績を基準年として取組を開始して、2011年12月28日に認証を取得しました。尚、本社・志木工場は2025年12月目途で認証取得の予定で準備を進めております。

- ・エコアクション21ガイドライン 2017年版に準拠して運用

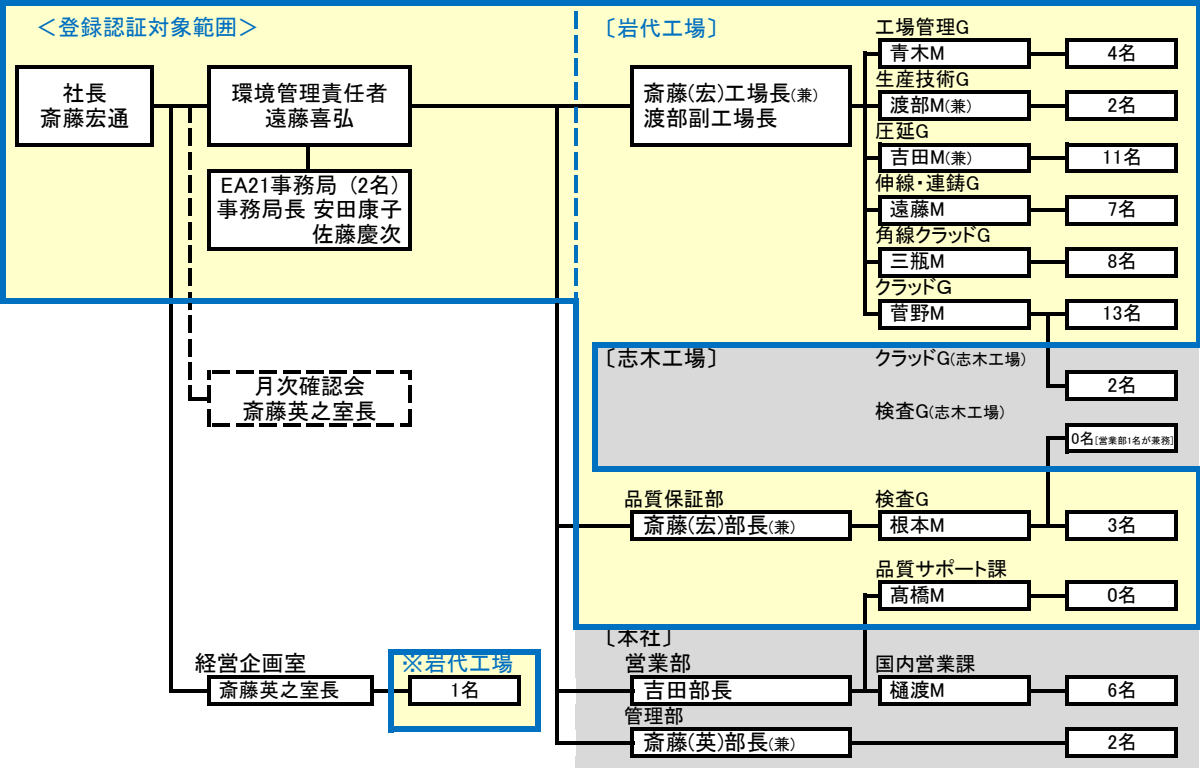
実施体制図

取組対象： 岩代工場

弊社岩代工場が製造部門のほぼ90%の生産量であり、環境負荷も高いので
認証登録範囲を岩代工場よりスタート。組織変更に伴ない58期(2025年1月)から下記体制で運用。

- 事業内容： 非鉄金属加工業
- ・電気接点用の貴金属クラッド材の製造
 - ・銀ロウ、リン銅ロウの製造
 - ・各種銀合金 板材・棒材・線材・パイプの製造
 - ・各種銅合金 板材・棒材・線材・パイプの製造

推進責任者 グループ員
(25.1.21現在)



主な役割表

役 割	及 び 権 限
社長 (代表者)	1. 「事業における課題とチャンスの整理」をまとめる 2. 環境経営方針の制定・誓約する。 3. 環境経営方針の周知。 4. 実施体制を構築し、環境管理責任者を任命する。 5. 環境経営資源を確保する。 6. 全体の取組状況の見直しに必要な情報を収集する。 7. 取組み状況の評価と見直し、必要な指示をする。
環境管理責任者 (管理責任者)	1. 代表者に代わってのEA21の構築運用を図る。 2. 環境経営方針を全社へ周知する。 3. 年1回/毎年10月に様式「代表者による見直し結果」に基づきEA21の実施状況を代表者に報告する。
EA21事務局	事務局活動を統括する立場として事務局長を置く 1. 管理責任者の事務的業務を担う。 2. 違法教育の実施及び外部からの環境苦情等の受付を行う。 3. 適用法規の調査と違法性チェックを行う。 4. 目的・目標一覧表及び環境目標計画表の作成。 5. 複数部門に関わる緊急事態の対応手順書の作成、訓練、記録。 6. 緊急事態訓練の指導、対応、実施。 7. 活動全般の推進。
部門長 (推進責任者)	1. 部門の目標計画の実施、活動状況の確認。 2. 自部門に関わる緊急事態の対応手順書の作成及び運用管理。 3. 部門に関連する問題点の抽出、是正・予防処置。 4. 運用管理に関する部下の指導。 5. 実施状況の記録
全従業員	1. 環境経営方針を理解し、環境活動に取組むことの重要性・必要性を理解する。 2. ルールを遵守し、自主的・積極的に環境活動に参加する。

〔保管期間:3年〕
最新版管理

環境経営目標

2023年 9月28日作成
2023年10月28日訂正

・環境経営方針を受け、本来業務を環境経営の視点に立って高い目標に重点を置き、環境負荷の削減に寄与する活動として、取組み推進の優先度を不良品削減及びロスタイムの削減等による改善に主眼を置き、その施策を通して無駄エネルギーの節約や廃棄物削減等々、環境保全の向上・生産性向上に取組むことで地球環境保全に貢献することと共に、それぞれの活動を通して製造体質の改革を図る。

中期環境経営目標 57期～59期

- ・事業年度は通年10月度～9月度。
 - ・基準年：①「廃棄物(可燃ごみ)」「廃棄物(廃プラスチック)」
…2017年10月～2018年9月(51期)と2018年10月～2019年9月(52期)の実績の平均。
②「廃棄物(可燃ごみ)」「廃棄物(廃プラスチック)」以外…2022年10月～2023年9月(56期)の実績。
 - ・目標管理は「総量管理」とする。
 - ①「廃棄物(可燃ごみ)」「廃棄物(廃プラスチック)」は、56期実績が目標値を超過したので、前期同様に51期と52期の「総量」の平均を基準とする。
 - ②「廃棄物(可燃ごみ)」「廃棄物(廃プラスチック)」以外については、56期の「総量」を基準とする。
 - ③「グリーン製品の提供」については、対象を「EVモーター用とエコ給湯用製品出荷量年5%増」とし、56期の「総量」を基準とする。
- * 2023年10月28日 56期総量確定に伴い、「基準年(2023年度)数量」と各年度の目標を訂正**

実績(原単位)=実績(総量)

- ◆ 目標管理の計算例 ・実績：消費電力総量(kWh)
(電力使用量の場合) ・達成率(%)：(当期実績－先期実績)÷(当期目標－先期実績)×100

管理項目	単位	取組対象	目標管理値	基準年	中期3年目標		
				2023年度 (56期)	2024年度	2025年度	2026年度
				廃棄物(可燃ゴミ)と 廃棄物(廃プラスチック) 2018・19年度平均 (基準年 51・52期)	(57期) '23/10～'24/9	(58期) '24/10～'25/9	(59期) '25/10～'26/9
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	※1	総量	531,766 ※2	529,107 0.5%削減(0.5%/年)	526,448 1%削減(0.5%/年)	523,790 1.5%削減(0.5%/年)
電力使用量削減	kWh		↑	1,051,222	1,045,966 0.5%削減(0.5%/年)	1,040,710 1%削減(0.5%/年)	1,035,454 1.5%削減(0.5%/年)
水使用量削減	m ³		↑	3,562	3,526	3,491 2%削減(1%/年)	3,455 3%削減(1%/年)
廃棄物排出量削減	kg	可燃ごみ	↑	2,202	2,158 2.0%削減(0.5%/年)	2,147 2.5%削減(0.5%/年)	2,136 3.0%削減(0.5%/年)
		廃プラスチック	↑	652	626 4%削減(1%/年)	619 5%削減(1%/年)	613 6%削減(1%/年)
		加工屑	↑	54,663	54,116 1%削減(1%/年)	53,570 2%削減(1%/年)	53,023 3%削減(1%/年)
化学物質使用量削減	台	ジクロロメタン	アルカリ電解水切替完了台数	アルカリ電解水切替 2台/5台中	アルカリ電解水切替 3台/5台中	アルカリ電解水切替 4台/5台中	アルカリ洗浄切替 5台/5台中
グリーン購入	品目	事務用品、省エネ設備等	グリーン購入品目数	計41品目	計43品目 (+2品目/年)	計45品目 (+2品目/年)	計47品目 (+2品目/年)
グリーン製品の提供	kg	EVモーター用、エコ給湯用製品	総量	8,656	8,743 1%増(1%/年)	8,829 2%増(1%/年)	8,916 3%増(1%/年)

※1 二酸化炭素排出量は電力以外に灯油、LPG、ガソリン、軽油の消費量を含んで算出した結果です。

※2 基準年の電力起源二酸化炭素排出量算出に用いたCO₂排出係数(kg-CO₂/kWh)は、
56期(22年10月～23年9月)=東北電力[調整後] 0.457 (R4年度)にて算出。

環境経営計画

2024年度 環境経営計画

(2023年10月～2024年9月)

2023年9月14日作成

管理項目		施策.取り組み内容		担当
二酸化炭素 排出量削減	デマンド削減	1	最大電力の低減によるピーク電力の削減 (1)第1受電 359kW以下 (2)第2受電 90kW以下	工場管理G 主査 工場管理G 圧延G, 伸線連鑄G, クラッドG, 角線G, 生産技術G 各マネージャー
		2	第1受電 太陽光発電(自家消費)稼働による 買電ピーク電力の低減	工場管理G 主査
	再生可能 エネルギーの活用	1	第1受電 太陽光発電(自家消費)稼働による 再生可能エネルギー由来電力の活用と二酸化炭素排出量 削減効果の把握	工場管理G 主査
	電力使用量の削減	1	焼鈍炉、加熱炉、計画的稼働	圧延G、 伸線連鑄G 各マネージャー
		2	大気焼鈍炉 計画的稼働	クラッドG マネージャー
		3	連続炉 加熱装置部更新	生産技術G 角線G マネージャー
		4	第4工場 エアコン更新	工場管理G 主査
		5	エアコンの室内機、室外機の定期清掃	全職場 各マネージャー
		6	第4・第5工場エアコンの夜間・休日の設定温度変更	圧延G、 クラッドG 各マネージャー
		7	工場天井照明のLED化	工場管理G 主査
		8	受電設備更新(PCB含有変圧器更新)	工場管理G 主査
水 使用量削減	水使用量の削減	1	下工場 水使用量異常値('23年8月220m³)の 発生原因調査と対策	工場管理G 主査 伸線連鑄G、 角線G 各マネージャー
廃棄物量削減	可燃ゴミ削減	1	可燃ゴミ重量の削減	工場管理G 主査、 圧延G、 伸線連鑄G、 クラッドG、 角線G、 各マネージャー
	加工屑削減	1	加工屑削減 ・不適合品発生数削減による不適合由来加工屑の削減 ・「月別Zグラフ」による管理	圧延G、 伸線連鑄G、 クラッドG、 角線G、 品質G 各マネージャー
化学物質 使用量削減	化学物質 使用量削減	1	アルカリ電解水切替推進(ジクロロメタン全廃水平展開) 継続テーマ	生産技術G 角線G 各マネージャー
グリーン購入	グリーン購入	1	グリーン製品の調査・置換検討・置換(2品目)	工場管理G マネージャー
製品含有 化学物質	不適合0件	1	含有禁止物質の流出防止	工場管理G 主査、

〔保管期間:3年〕
最新版管理

地域とのコミュニケーション

今期も工場団地周辺のクリーン活動を実施しました。

【2023年12月28日】 各グループ代表による活動（側溝掃除）



2024年 環境経営目標・環境経営計画取組み結果と自己評価

取組み活動期間：2023年10月～2024年9月(57期)

達成率の計算式： (当期実績－先期末実績)÷(当期目標－先期末実績)×100
実積一覧 ※実績、差異、達成率は2023年10月～2024年9月の数値にて自己評価 ○ 達成(100%以上) ▼ 未達(100%未満)

2024年11月29日作成

管理項目	単位	取組対象	目標管理 値	規準年	2024年度 目標 (57期)	2024年度 実績 (57期)	差異 増減	達成率 %	効果(差異)理由 今後への課題
				2023年度 (56期)	'23/10～'24/9	'23/10～'24/9			
				廃棄物(可燃ごみ)と 廃棄物(廃プラスチック) 2018・19年度平均 (基準年 51・52期)					
二酸化炭素 排出量削減	kg-CO2		総量	531,766	529,107 0.5 % 削減	458,315	-70,792	2,762% ○	理由:①太陽光発電を導入し、'23年12月27日 より稼働した結果、買電が12.8%減少し、電力 起源の排出量が減少 ②省エネ設備への更新(ガス給湯器、照明) 課題:省エネ設備への更新(照明、エアコン等)
電力使用量 削減	kWh		↑	1,051,222	1,045,966 0.5 % 削減	977,756	-68,210	1398% ○	理由:①省エネ設備への更新(照明、エアコン) ②焼酎炉等の計画的稼働で昇温回数削減 ③連続運転しているエアコンの冬期間の暖房設 定温度を、夜間・休日に18℃に下げた 課題:省エネ設備への更新(照明、エアコン等)
水使用量 削減	m3		↑	3,562	3,526 1% 削減	2,826	-700	2,044% ○	理由:53期後半実施の漏水修理で漏水解消 課題:節水の施策の確実な実行
廃棄物 排出量削減		可燃ごみ	↑	2,202	2,158 2 % 削減	1,854	-304	473% ○	理由:①ペーパータオルの廃止('23年12月) ②工場内整理が進み不要物が減少し、大掃 除の際に排出されるゴミが減少 課題:排出量の多い部署の排出状況の分析 と削減方法検討
	kg	廃プラスチック	↑	652	626 4 % 削減	578	-48	289% ○	理由:①主な発生源である梱包材は、出荷時 の梱包材としてリユースし減少 ②一般購買品の購入件数が減少し、梱包材 も減少 課題:ゴミを“発生させない”施策の検討
		加工屑	↑	54,663	54,116 1 % 削減	44,163	-9,953	1920% ○	理由:生産量が9%減少し加工屑全体量も56期 より19%減少。 課題:不適合品発生数削減による不適合由 来加工屑の削減
化学物質 使用量削減	台	ジクロロメタン	アルカリ電解水切 替完了台数	切替完了台数 2台/5台中	切替完了台数 3台/5台中 (切替数1台)	切替完了台数 2台/5台中 (切替数0台)	-1	0% ▼	設備更新に当たり、先行稼働した設備で判明 した問題点の改善策を反映する為、その内容 の検討に時間が掛り56期中の設備更新に至 らなかった。
グリーン購入	品目	事務用品、省 エネ設備等	グリーン購入 品目数	グリーン購入 計41品目	グリーン購入 計43品目 (2品目増)	グリーン購入 計45品目 (4品目増)	+4	200% ○	照明器具のLED化を進める中、購入の際に意 識してグリーン製品を選定した。今後も継続して 新たなグリーン製品の選定を行っていきたい。
グリーン製品 の提供	kg	EVモーター用 エコキュート用 製品	総量	8,656	8,743 1%増	9,715		1217% ○	①電気自動車の普及に伴い電気自動車用部 品の出荷量が、57期も高めで推移している。 ②エコキュート用製品出荷量が56期の1.2倍に増 加。

取組み結果と自己評価考察

2023年10月から2024年9月までの1年間の取組について自己評価考察を行った。評価方法は、「総量」で行った。
目標を達成できたのは化学物質使用量削減以外の8項目であった。
・電力使用量については、生産量減少に伴う電力使用量の減少もあるが、電気炉の効率的運用や省エネ設備への更新(LED照明、エアコン)、連続
運転しているエアコンの冬期間の暖房設定温度を夜間・休日の作業者が不在時に18℃に下げる施策も削減に繋がった。
・二酸化炭素排出量については、生産量減少に伴うエネルギー使用量の減少に加え、太陽光発電導入により買電が12.8%減少した事で電力起源
の排出量が大幅に下がった。また、第1工場でのガス給湯器の省エネタイプへの更新でLPGの使用量が下がった事、暖冬で暖房用灯油の使用量
が減少した事も排出量削減に繋がった。
・水使用量については、昨年度8月に下工場で発生した様な原因不明の突発的な水使用量の増加もなく、生産量減少の影響もあり、目標を達成し
た。
先述の突発的な増加の発生原因が不明の為、58期も引き続き、下工場2カ所の水道メーターで使用量を毎朝記録し、使用量の異常の発見と発
生原因の調査に努める。
・廃棄物については、可燃ごみは、設備整備時に発生するウエスに付着したオイル、グリス等の分別の徹底、廃プラスチックは、梱包資材のリユ
ースの推進を継続実施している。また、以前、大掃除に伴う可燃ごみや廃プラスチックのまとまった量の排出が見受けられることから、58期も、日頃
の整理整頓の推進にも努める。
加工屑は、品質不適合により発生した加工屑が目標を若干オーバーしたものの、生産量減少に伴う加工屑の減少により、加工屑全体量は56期
実績よりも10、500kg減少して、目標を達成した。
・化学物質使用量削減においては、ジクロロメタン洗浄からアルカリ電解水洗浄への更新にあたり、先行して導入した設備(2台)の問題点と改善策
の検討が進捗せず、57期中の更新には間に合わなかった。
58期は、改善策を反映させた更新計画を基に、まず洗浄機の更新・稼働を目指していく。
57期は、生産量の減少でエネルギー使用量や廃棄物が減少したが、環境施策の取組によるエネルギー使用量や加工屑排出量等の減少効果も見
られた。
58期は、エネルギー使用量や廃棄物削減の更なる新たな施策の実施や化学物質削減の施策推進の援助も行い、目標達成に努めたい。

注1)基準年のCO2排出係数は(kg-CO2/kWh)、東北電力[調整後]0.457(R4年度)にて算定
注2)2024年度実績のCO2排出係数(kg-CO2/kWh)は、'23年10月～'24年2月 東北電力[調整後]0.483、
'24年3月～9月 U-POWER[調整後]0.491(R5年度)にて算定
【保管期間:3年】
最新版管理

環境経営目標・環境経営計画 取組結果と自己評価 詳細

二酸化炭素排出量削減

2023年度(56期)実績

531,767kg-CO₂

2024年度(57期)目標値

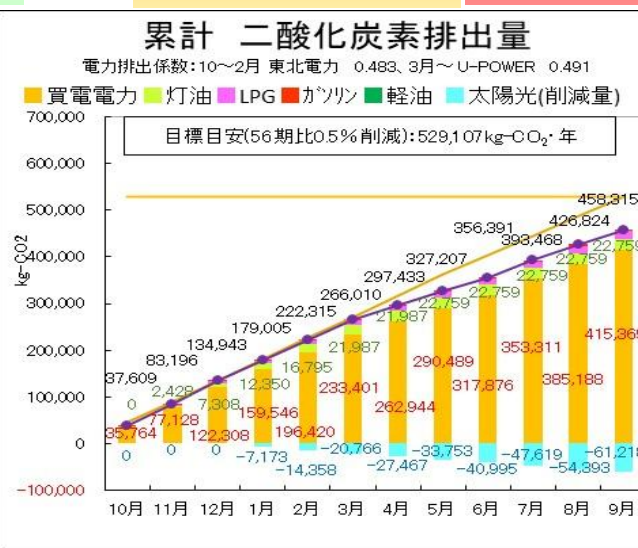
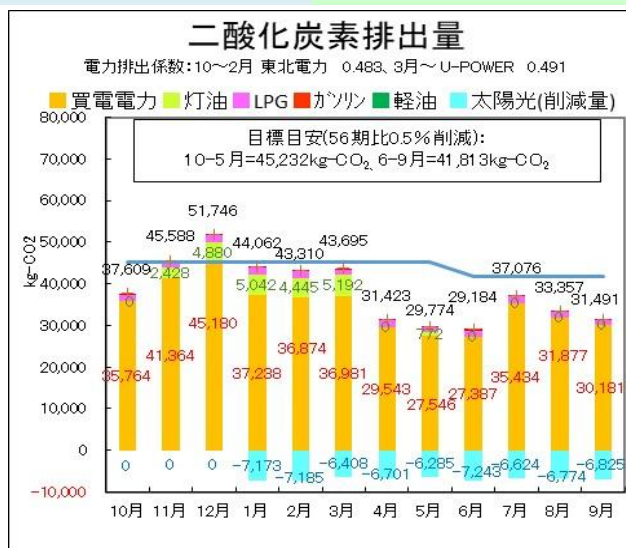
529,107kg-CO₂

2024年度(57期)実績

458,315kg-CO₂

達成率

2,762%



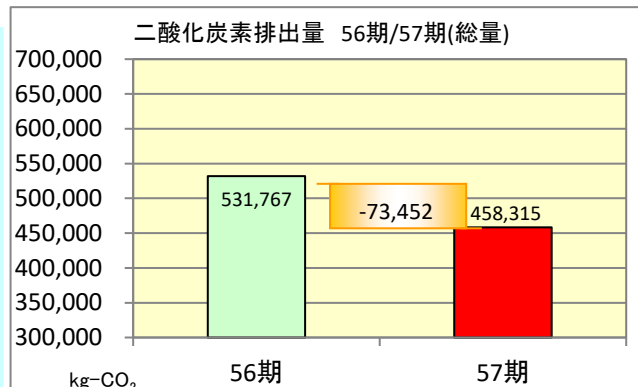
取組結果へのコメント

57期は、自家消費型太陽光発電(200kW、'24.12.27稼働)を導入して、買入電力の使用量を削減した。

また、①エアコン等の省エネ設備への更新、②焼鈍炉等の計画的稼働、③デマンド監視装置を活用した焼鈍炉等の昇温時期の調整やエアコン稼働台数の調整等により、電力使用量の削減に繋がった。

以上の結果、電力起源の二酸化炭素排出量を12.8%削減した。

58期も省エネ設備への更新(照明、エアコン)とエアコン設定温度の計画的な変更等を実施し、更なる電力使用量の削減に努めたい。



環境経営目標・環境経営計画 取組結果と自己評価 詳細

電力使用量削減

2023年度(56期)実績

1,051,222kWh

2024年度(57期)目標値

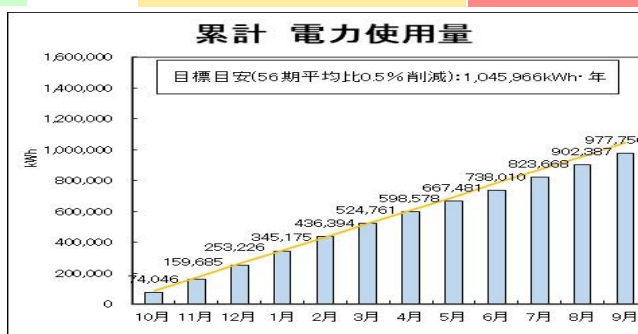
1,045,966kWh

2024年度(57期)実績

977,756kWh

達成率

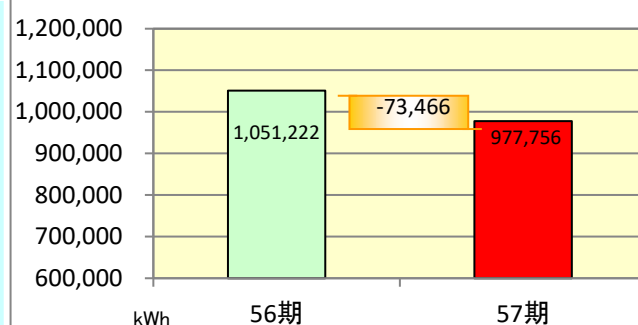
1,398%



取組結果へのコメント

57期は①エアコン等の省エネ設備への更新、②焼鈍炉等の計画的稼働、③デマンド監視装置を活用した焼鈍炉等の昇温時期の調整やエアコン稼働台数の調整等により、電力使用量の削減に繋がった。

58期も省エネ設備への更新(照明、エアコン)とエアコン設定温度の計画的な変更等を実施し、更なる電力使用量の削減に努めたい。



水使用量削減

2023年度(56期)実績

3,562m³

2024年度(57期)目標値

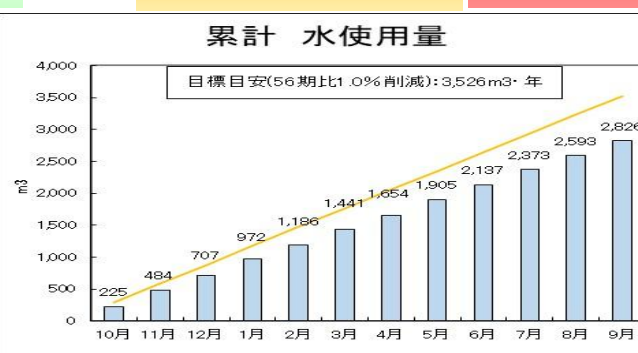
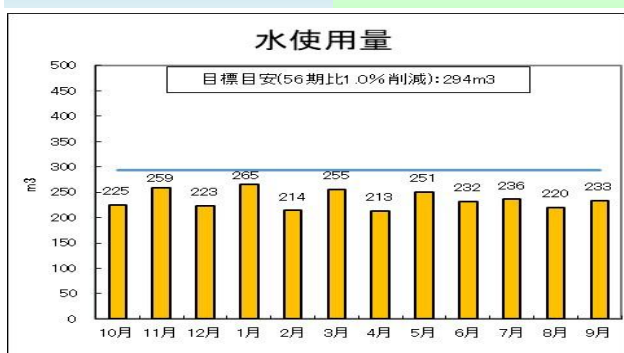
3,526m³

2024年度(57期)実績

2,826m³

達成率

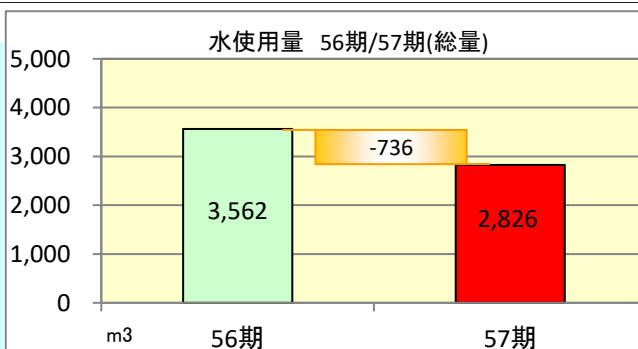
2,044%



取組結果へのコメント

先期56期は、下工場で8月の水使用量が通常の5倍の220m³となる現象が発生したため、年間の水使用量が多かった。57期は生産量が9%の減少したこと、56期の様な異常な水使用量の増加も見られなかったことから、目標値を700m³下回った。

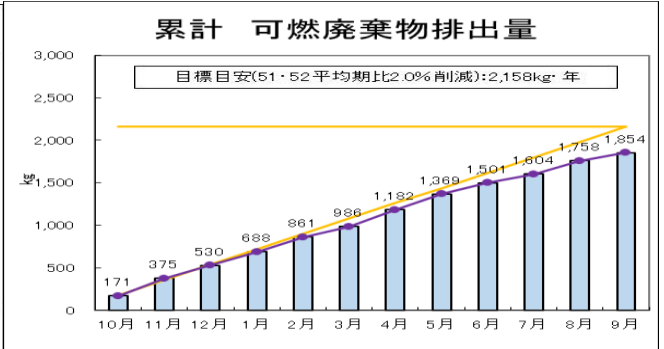
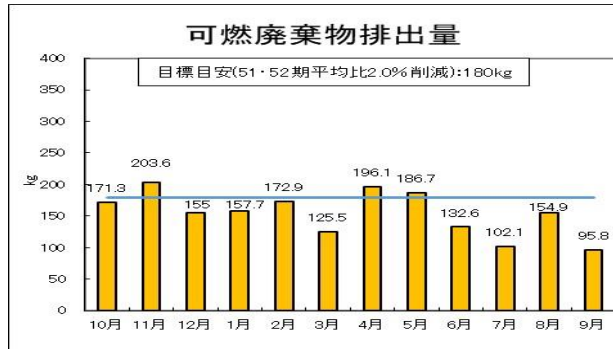
56期の下工場の水使用量の異常増加の原因が特定されていないことから、58期も、「第7工場」と「第6・第8工場」に区分して水使用量を調査し、原因の特定をしたい。



環境経営目標・環境経営計画 取組結果と自己評価 詳細

可燃廃棄物排出量削減

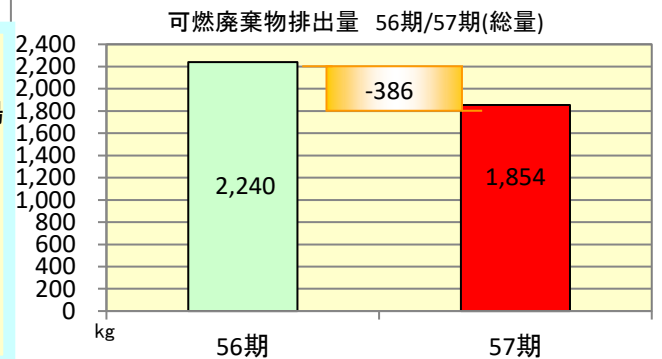
2023年度(56期)実績	2024年度(57期)目標値	2024年度(57期)実績	達成率
2,240kg	2,158kg	1,854kg	473%



取組結果へのコメント

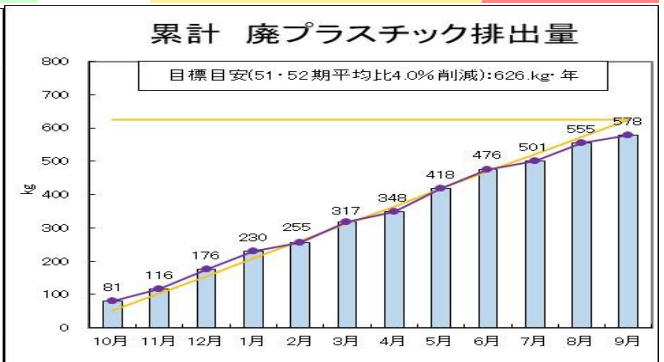
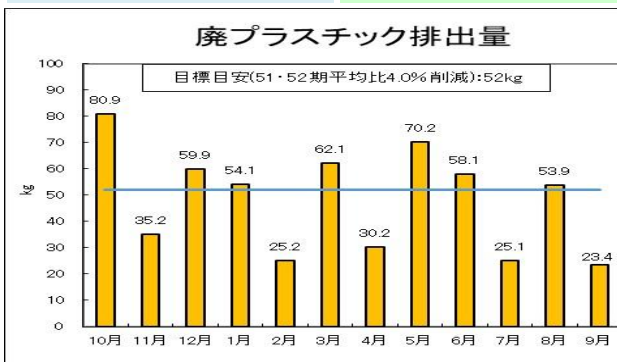
57期は、コロナ禍も終息し、感染防止対策として使用していたペーパータオルを'23年12月に廃止したこと、職場内の整理整頓が進み、職場内の大掃除等の際にまとめて排出された不要物の量が減少したことで、可燃廃棄物排出量は、56期よりも386kg減少し、目標値を304kg下回った。

58期も、排出量の多い部署の排出状況を分析し、排出量削減や分別の見直しを進めていく。



廃プラスチック廃棄物排出量削減

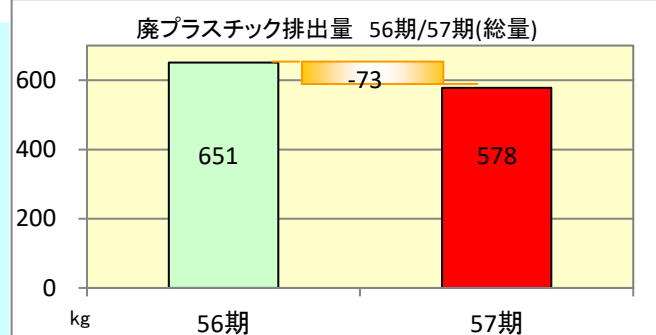
2023年度(56期)実績	2024年度(57期)目標値	2024年度(57期)実績	達成率
651kg	626kg	578kg	289%



取組結果へのコメント

57期は、①一般購買品の購入件数が若干減少し、その梱包材の発生量も減少したこと、②製品出荷時の梱包資材への積極的リユースが行われたこと、③職場内の整理整頓が進み、職場内の大掃除等の際にまとめて排出された廃プラスチックの量も減少したことで、廃プラスチック排出量は、56期よりも73kg減少し、目標値を48kg下回った。

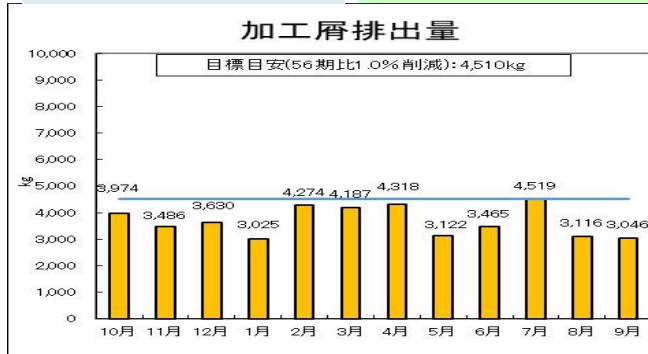
58期も、排出量の多い部署の排出状況を分析し、排出量削減やこまめな排出の指導を進めていく。



環境経営目標・活動経営計画 取組結果と自己評価 詳細

加工屑排出量削減

2023年度(56期)実績	2024年度(57期)目標値	2024年度(57期)実績	達成率
54,663kg	54,116kg	44,163kg	1,920%

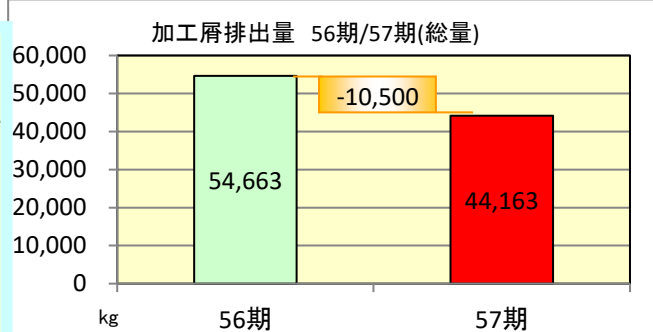


取組結果へのコメント

57期も加工屑の発生要因の1つである、「不適合品発生数削減による不適合由来加工屑の削減」は、年間目標 582kg に対し実績 655.59Kgで 73.59kg上回り目標未達であった。

しかし、57期は生産量が56期より10t減少した事もあり、57期の加工屑排出量は、56期より 10,500kg減少し、目標値よりも 9,953kg下回り目標達成となった。

58期も引き続き、「不適合品発生数削減による不適合由来加工屑の削減」に努め、目標を達成したい。



環境経営目標・環境経営計画 取組結果と自己評価 詳細

化学物質使用量削減(ジクロロメタン)

2023年度(56期)実績	2024年度(57期)目標値	2024年度(57期)実績	達成率
アルカリ電解水切替 完了台数 2台/5台中 (切替台数 0台)	アルカリ電解水切替 完了台数 3台/5台中 (切替台数 1台)	アルカリ電解水切替 完了台数 2台/5台中 (切替台数 0台)	0%

取組結果へのコメント

アルカリ電解水を使用した洗浄設備への更新にあたり、先行して導入した設備(2台)の問題点と改善策の検討が進捗せず、57期中の更新には間に合わなかった。

58期は、改善策を反映させた更新計画が遅れている要因を調査し、阻害要因を取り除いて、58期中2台の更新・稼働を目指していく。

グリーン購入

2023年度(56期)実績	2024年度(57期)目標値	2024年度(57期)実績	達成率
グリーン購入 合計41品目 (+3品目)	グリーン購入 合計43品目 (+2品目)	グリーン購入 合計45品目 (+4品目)	200%

取組結果へのコメント

57期も照明のLED化更新の際、グリーン購入法適合品を意識して選定した結果、「LED照明」4形式が採用できたことで、目標を2品目上回って達成することができた。

58期も照明のLED化を計画しており、継続して新たなグリーン製品の選定・導入をしていく。

グリーン製品の提供

2023年度(56期)実績	2024年度(57期)目標値	2024年度(57期)実績	達成率
EVモーター用・ エコ給湯用製品 出荷量 8,656kg	EVモーター用・ エコ給湯用製品 出荷量 8,743kg	EVモーター用・ エコ給湯用製品 出荷量 9,715kg	1,217%

取組結果へのコメント

57期は、海外での電気自動車の普及に伴いEVモーター用製品の出荷量が高めに推移した。また、エコキュート用製品の出荷量が56期の1.2倍に増加した。

環境経営目標

2023年 9月28日作成
2023年10月28日訂正
2024年 9月24日変更

・環境経営方針を受け、本来業務を環境経営の視点に立って高い目標に重点を置き、環境負荷の削減に寄与する活動として、取組み推進の優先度を不良品削減及びロスタイムの削減等による改善に主眼を置き、その施策を通して無駄エネルギーの節約や廃棄物削減等々、環境保全の向上・生産性向上に取り組むことで地球環境保全に貢献することと共に、それぞれの活動を通して製造体質の改革を図る。

中期環境経営目標 57期～59期

- ・事業年度は通年10月度～9月度。
- ・基準年：①「廃棄物(可燃ごみ)」 「廃棄物(廃プラスチック)」
…2017年10月～2018年9月(51期)と2018年10月～2019年9月(52期)の実績の平均。
②「廃棄物(可燃ごみ)」 「廃棄物(廃プラスチック)」以外…2022年10月～2023年9月(56期)の実績。
- ・目標管理は「総量管理」とする。
- ①「廃棄物(可燃ごみ)」 「廃棄物(廃プラスチック)」は、56期実績が目標値を超過したので、前期同様に51期と52期の「総量」の平均を基準とする。
- ②「廃棄物(可燃ごみ)」 「廃棄物(廃プラスチック)」以外については、56期の「総量」を基準とする。
- ③「グリーン製品の提供」については、対象を「EVモーター用とエコ給湯用製品出荷量年5%増」とし、56期の「総量」を基準とする。
- * 2023年10月28日 56期総量確定に伴い、「基準年(2023年度)数量」と各年度の目標を訂正
- * 2024年9月24日 2024年度「グリーン購入」実績が、+4品目(計45品目)で2025年度目標に達した為、2025年、2026年の「グリーン購入」目標値を変更

実績(原単位)=実績(総量)

- ◆ 目標管理の計算例 ・実績：消費電力総量(kWh)
(電力使用量の場合) ・達成率(%)：(当期実績－先期実績)÷(当期目標－先期実績)×100

管理項目	単位	取組対象	目標管理値	基準年	中期3年目標		
				2023年度 (基準年 51・52期)	2024年度	2025年度	2026年度
				廃棄物(可燃ゴミ)と 廃棄物(廃プラスチック) 2018・19年度平均 (基準年 51・52期)	(57期) '23/10～'24/9	(58期) '24/10～'25/9	(59期) '25/10～'26/9
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	※1	総量	531,766 ※2	529,107 0.5%削減(0.5%/年)	526,448 1%削減(0.5%/年)	523,790 1.5%削減(0.5%/年)
電力使用量削減	kWh		↑	1,051,222	1,045,966	1,040,710 1%削減(0.5%/年)	1,035,454 1.5%削減(0.5%/年)
水使用量削減	m ³		↑	3,562	3,526 1%削減(1%/年)	3,491 2%削減(1%/年)	3,455 3%削減(1%/年)
廃棄物排出量削減	kg	可燃ごみ	↑	2,202	2,158 2.0%削減(0.5%/年)	2,147 2.5%削減(0.5%/年)	2,136 3.0%削減(0.5%/年)
		廃プラスチック	↑	652	626 4%削減(1%/年)	619 5%削減(1%/年)	613 6%削減(1%/年)
		加工屑	↑	54,663	54,116 1%削減(1%/年)	53,570 2%削減(1%/年)	53,023 3%削減(1%/年)
化学物質使用量削減	台	ジクロロメタン	アルカリ電解水切替完了台数	アルカリ電解水切替 2台/5台中	アルカリ電解水切替 3台/5台中	アルカリ電解水切替 4台/5台中	アルカリ電解水切替 5台/5台中
グリーン購入	品目	事務用品、省エネ設備等	グリーン購入品目数	計41品目	計43品目 (+2品目/年)	計45品目 計47品目 (+2品目/年)	計47品目 計49品目 (+2品目/年)
グリーン製品の提供	kg	EVモーター用、エコ給湯用製品	総量	8,656	8,743 1%増(1%/年)	8,829 2%増(1%/年)	8,916 3%増(1%/年)

※1 二酸化炭素排出量は電力以外に灯油、LPG、ガソリン、軽油の消費量を含んで算出した結果です。

※2 基準年の電力起源二酸化炭素排出量算出に用いたCO₂排出係数(kg-CO₂/kWh)は、

56期(22年10月～23年9月)=東北電力[調整後] 0.457 (R4年度)にて算出。

環境経営計画

2025年度 環境経営計画

(2024年10月～2025年9月)

2024年9月24日作成

管理項目		施策.取り組み内容		担当
二酸化炭素 排出量削減	デマンド削減	1	最大電力の低減によるピーク電力の削減 (1)第1受電 335kW以下 (2)第2受電 80kW以下	工場管理G 主査 工場管理G 圧延G, 伸線連鑄G, クラッドG, 角線G, 生産技術G 各マネージャー
		2	第1受電 太陽光発電(自家消費)稼働による 買電ピーク電力の低減	工場管理G 主査
	再生可能 エネルギーの活用	1	第1受電 太陽光発電(自家消費)稼働による 再生可能エネルギー由来電力の活用と二酸化炭素排出量 削減効果の把握	工場管理G 主査
	電力使用量の削減	1	焼鈍炉、加熱炉、計画的稼働	圧延G、 伸線連鑄G 各マネージャー
		2	大気焼鈍炉 計画的稼働	クラッドG マネージャー
		3	連続炉 加熱装置部更新	生産技術G 角線G マネージャー
		4	第5工場 エアコン更新	工場管理G 主査
		5	エアコンの室内機、室外機の定期清掃	全職場 各マネージャー
		6	第4・第5工場エアコンの夜間・休日の設定温度変更	圧延G、 クラッドG 各マネージャー
		7	工場天井照明のLED化	工場管理G 主査
		8	受電設備更新(PCB含有変圧器更新)	工場管理G 主査
水 使用量削減	水使用量の削減	1	下工場 水使用量異常値('23年8月220m³)の 発生原因調査と対策	工場管理G 主査 伸線連鑄G、 角線G 各マネージャー
廃棄物量削減	可燃ゴミ削減	1	可燃ゴミ重量の削減	工場管理G 主査、 圧延G、 伸線連鑄G、 クラッドG、 角線G、 各マネージャー
	加工屑削減	1	加工屑削減 ・不適合品発生数削減による不適合由来加工屑の削減 ・「月別Zグラフ」による管理	圧延G、 伸線連鑄G、 クラッドG、 角線G、 検査G 各マネージャー
化学物質 使用量削減	化学物質 使用量削減	1	アルカリ電解水切替推進(ジクロロメタン使用量の削減(廃止)) 継続テーマ	生産技術G 角線G 各マネージャー
グリーン購入	グリーン購入	1	グリーン製品の調査・置換検討・置換(2品目)	工場管理G マネージャー
製品含有 化学物質	不適合0件	1	含有禁止物質の流出防止	工場管理G 主査、

〔保管期間:3年〕
最新版管理

環境関連法規等の遵守状況

確認日 2024年9月27日

弊社に該当する環境関連法規制は以下の通りです。

(事務局は官報、インターネット等を通じ、最新情報・変化点を入手し<法規等の取りまとめ及び遵守状況チェック結果>帳票で最新版で管理する)

環境関連法規	法的遵守事項	実施状況及び確認事項	遵守判定
福島県生活環境保全条例 (法に基づく特定施設よりの水質管理)	特定施設の届出及び管理 ・酸洗浄機 ・脱脂洗浄機	適正届出 確認済	○
		排水分析 ⇒毎月1回排水分析を実施、適合を確認	○
廃棄物処理法	第6、12、14条 契約書・マニフェスト 第12条 適正保管管理状態 第8条27 管理票交付者の報告	契約書 許可書確認	○
		廃棄物管理場設置・定期確認	○
		県知事へ報告書 提出を確認 ⇒2024年6月7日付け提出を確認	○
フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律	施行規則第2条 経産省・環境省告示第13号	簡易点検の定期実施を確認	○
		定期点検(専門業者) ⇒2024年9月27日現在対象設備1台 未実施 ⇒2025年3月3日対象設備1台実施、完了を確認	× ↓ 3/3○
浄化槽法	第11条 浄化槽定期点検	定期検査結果の記録保管を確認	○
毒劇物取締法	第11条 盗難防止・劇毒物表示・保管	購入保管量・鍵の掛る保管庫保管確認 「在庫管理簿」による入出庫管理を確認	○
福島県化学物質適正管理指針	指針第2、第3条、指針実施要領第3条 指定1種物質と指針別表の化学物質取扱量で規制	「化学物質使用量等総括表」 (ジクロロメタン等) ⇒2023年12月8日付け届出を確認	○
特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律(PRTR制度)	第2、5条 従業員数・指定1種物質取扱量等で規制	「PRTR届出」 ⇒2024年6月25日付け届出を確認	○
有機溶剤中毒予防規則	第20条 局所排気装置の定期自主点検	局所排気装置の定期自主検査 ⇒前回2024年1月12日実施、完了を確認	○
	第21条 自主検査結果の3年間の保管	自主検査記録の保管を確認	○
	第24条 有機溶剤に関する掲示	中毒時の応急処置等の掲示を確認	○
	第25条 有機溶剤等の区分の表示	区分の掲示を確認	○
ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法	第3条 事業者の責務 第8条 保管等の届出 第10条 期間内の処分	報告書の県知事への提出 ⇒2024年5月20日付け届出を確認	○
消防法	第2、12条 危険物取扱適正管理状態 第4類第2石油類…指定数量1000L 第17条 消火器配備	少量危険物取扱所(灯油675L以下)	○
		適切配置を確認	○

関連法規等の遵守状況確認結果
「フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律」の専門業者による定期点検が期限内に未実施でした。
(※追記: 本件については、'25年3月3日に実施、完了致しました。)
その他については、違反等の指摘、近隣からの苦情はありません。

代表者による全体の評価と見直し（その1）

2025年3月12日作成

見直しに必要な情報				
(管理責任者の報告)				
①環境経営目標達成率				
○ 達成(100%以上) ▼未達(100%未満)				○・・・8件 ▼・・・1件
目標項目	目標	実績	達成率	未達の理由と今後の対応 ●ジクロロメタン…設備更新に当たり、先行して導入した設備(2台)の問題点と改善策の検討が進捗せず、57期中の更新に間に合わなかった。 58期は、関係部署と共に、停滞や遅延の要因や具体的対策作成の協議にも加わって洗浄機の更新・稼働を目指していく。 ●57期は、太陽光発電稼働により電力起源の二酸化炭素排出量が12.8%も削減された。また、エネルギーの施策の効果に加え、生産量の減少もあって、エネルギー使用量や加工屑排出量等が減少した。 ただ、可燃ゴミや廃プラスチックについては、職場内の整理整頓時にまとまって排出される不要物が、減少傾向にはある今期もまだ多く見られた。また、今期は新設備製作用に購入された物品が多くあり、その梱包材がまとめて排出されるケースもあった。 58期は、エネルギー使用量や廃棄物削減の新たな施策の実施と、化学物質削減の施策推進の援助も行い、目標達成に努めたい。
CO2排出量の削減量 [kg-CO2]	-2,660	-73,452	2762% ○	
電力使用量の削減量 [Kwh]	-5,256	-73,466	1398% ○	
水使用量の削減量 [m3]	-36	-736	2044% ○	
可燃ごみ排出量の削減量 [kg]	-82	-385	473% ○	
廃プラスチック排出量の削減量 [kg]	-25	-73	289% ○	
加工屑排出量の削減量 [kg]	-547	-10,500	1920% ○	
化学物質質量削減 (アルカリ電解水切替台数)	切替数 1 台 (切替完了 3 台/5台中)	切替数 0 台 (切替完了 2 台/5台中)	0% ▼	②環境経営計画 実施率
グリーン購入品目の増加数	2品目 計43品目	4品目 計45品目	200% ○	
グリーン製品提供量の増加量 [kg] (EVモーター用、エコキュート用製品出荷量)	87	1,059	1217% ○	
②環境経営計画 実施率				施策の実施率は56期80%から、57期は83%に向上した。 ただ、実施に至らなかった施策は、設備更新に関するもので、環境管理責任者のフォロー、進捗確認不足も多々あり反省している。 未達の施策については、進捗状況を把握し、停滞や遅延している場合には、関係部署と共にその要因や具体的対策作成の協議にも加わって、各部署で確実に実施出来る様に支援を行っていきたい。
部署名	計画(件)	実績(件)	達成率	
工場管理G	11	8	73%	
生産技術G	4	2	50%	
品質保証部	2	2	100%	
圧延G	6	6	100%	
クラッドG	6	6	100%	
角線G	7	5	71%	
伸線連铸G	5	5	100%	
合計	41	34	83%	
③その他				1)外部コミュニケーション 法令等を遵守し、お客様、並びに取引業者様をはじめ、近隣の居住者や事業所に対しても迷惑を掛けないようにして行きたい。 2)前年度ご指摘事項の是正について ①「廃棄物表示」の「産業廃棄物の種類」の欄に「ガラスくず(水銀使用製品産業廃棄物) 蛍光灯、水銀灯」を追加した。 ②油で汚染された土壌は、回収の上、産業廃棄物処理業者に「汚泥」として焼却処分を依頼し処置した。 油滴飛散対策として、ドラム缶にビニールホースを取付けた蓋を取付け、ホースの反対側をファンのドレン口に接続して、ドレン口から出る油滴がドラム缶内に直接流れ込む様に改善した。 ③小分け使用に適切な容器を購入し、内容物の品名、GHS絵表示を行って使用する様に変更した。
1)外部コミュニケーション				
①環境調査・化学物質調査(不使用証明書発行含む)等の問い合わせ 57期 119件 (56期 153件)				
②苦情・・・0件				
2)前年度ご指摘事項				
①エコステーションの廃棄物表示の産業廃棄物の種類欄に「水銀使用廃棄物」とあるが、正しくは、廃棄物の種類と水銀使用製品産業廃棄物が含まれる旨を記載する必要がある。				
②第四工場の排気ダクトファンのドレン口から落下する油滴を真下にあるドラム缶で受ける様になっているが、その周辺に油が落下し、油により土壌が汚染されている状態なので改善が必要。				
③第二工場で使用しているイソプロピルアルコールを、洗剤の容器に移し替えて使用しているが、内容物の表示が無い。				

※2024年実績の電力起源二酸化炭素排出量は
「57期…'23年10月～'24年2月＝CO2排出係数 東北電力(株) [調整後] 0.483 (kg-CO2/kWh)(R5年度)、
'24年3月～'24年9月＝CO2排出係数 (株)U-POWER [調整後] 0.491 (kg-CO2/kWh)(R5年度)」にて算定

代表者による全体の評価と見直し(その2)

開催日: 2025年 3月14日(金)
出席者: 斎藤社長・遠藤主査

承認	確認	作成
		

1.環境経営方針	☐ 変更する	☒ 変更しない
エコアクション21 2017年版に合わせて53期に改訂した環境経営方針に基づいて活動する。		
2.環境経営目標	☐ 変更する	☒ 変更しない
「総量」による目標を継続する。		
3.環境経営計画	☐ 変更する	☒ 変更しない
未達の環境目標に対しては、現状把握、対策立案、効果の確認、施策の維持のPDCAを実施してください。		
4.環境マネジメントシステム	☐ 変更する	☒ 変更しない
エコアクション21 2017年版に基づくシステムを継続して実施する。		
5.実施体制	☒ 変更する	☐ 変更しない
「本社・志木工場」の活動開始の宣言を3月末に行い、実施体制を構築し活動を行ってください。		
6.その他		
①志木本社工場は2025年12月目途で認証取得出来る様に準備を進めてください。 ②ジクロロメタンの削減に対して具体的な施策に基づき推進してください。 ③二酸化炭素排出係数の少ない電力を使用して、二酸化炭素排出量の削減を向上させてください。		
7.社長総評		
①1年間の活動お疲れ様でした。感謝致します。 ②太陽光発電の活用により、受注増加の環境下でも、ピーク電力の低減とCO2排出ガスの低減に努めてください。		